

JET 通信

第112号 2025年10月6日

発行：学校法人 JET 日本語学校 / JET 日本語学校後援会

7月の日本語能力試験(JLPT)結果

N1で81%、N2は88%が合格

N1 校内ベスト5 (180点満点)				
	クラス	氏名	出身	得点
1	A	於 穎 敏	香港	171
2	C	CINDY AURELLIE MARCIANO	インドネシア	144
3	C	CHONG JIE HAO	マレーシア	143
4	C	劉 穎 欣	マカオ	142
5	C	麥 麒 謙	香港	140

7月6日に実施された JLPT を、N1 から N4 まで合計 89 人が受験しました。合格者はのべ 72 人で、合格率は 80.9%でした。

N1 は 21 人が受験し 17 人が合格。合格率は 81.0%、校内平均点は 118.3 点でした。受験者のうち 7 人は非漢字圏出身で、全員が合格。その平均は校内平均を上回る 124.7 点でした。

各分野での満点 (60 点) は、のべ 5 人。「読解」の分野では、於穎敏さんと CINDY AURELLIE MARCIANO さんの 2 人。「聴解」では、於穎敏さん、CHONG JIE HAO さん、NUANBUNRUANG NATTAPHAT さん (A クラス・タイ) の 3 人が満点でした。

N2 では 43 人中 38 人が合格。合格率は 88.4%で、校内平均は 112.4 点でした。合格者のうち 10 人は、3 月に初級クラスを終えたばかりでした。校内最高は黄焯鈴さん(A・香港)の 171 点でした。

N3 では、24 人のうち 16 人が合格、合格率は 66.7%でした。

6月の日本留学試験(EJU)結果

進学クラス平均 278.1 点

世界平均を 44.9 点上回る

「日本語」校内ベスト3 (400点満点)				
	クラス	氏名	出身	得点
1	A	WONG ADRIAN YEC	イギリス	360
2	A	盧 巧 妍	マカオ	359
3	A	鄭 丞 傑	台湾	345

6月15日に世界14の国・地域で実施された EJU。国内外の総受験者数は 25,200 人。前年 6 月実施時より約 11%増えました。

JET からは 31 人が試験に挑みました。WONG ADRIAN YEC さんが日本語で 400 点満点中 360 点を獲得し、校内トップでした。世界最高点は 371 点でした。進学クラス

(A、B)の平均点は 278.1 点で、全受験者の平均 233.2 点を 44.9 点も上回る素晴らしい成績でした。

分野別に見ると、「読解」(200 点満点)では、WONG ADRIAN YEC さん、盧巧妍さん、劉宸維さん(A・台湾)の 3 人が世界最高の 198 点を獲得しました。「聴解・聴読解」(200 点満点)では、WONG ADRIAN YEC さん、於穎敏さん(A・香港)、SRIWIBOONRATTANA KANOKNAPAT さん(A・タイ)の 3 人が校内最高の 162 点でした。「記述」では、盧巧妍さんが満点の 50 点をマークしました。

スピーチ大会 最優秀賞は劉宸均さん

北区長が激励に

7月31日に行われた第30回校内スピーチ大会。最優秀賞は劉宸均さん(A クラス・台湾)が獲得しました。何気ない日常のエピソードから感じたことを、落ち着いた語り口で話す劉さんのスピーチには、皆が思わず引き込まれていました。次席に大差をつけて堂々の 1 位でした。

大会には北区の山田加奈子区長がご挨拶に駆けつけてくださいました。町内会や地元の銀行の方々も来場されました。

(2面に関連記事)



18 名が修了 3 名が就職内定

9月19日、日本語基礎科を 18 名が修了しました。このうち日本での就職内定は 3 名、就活のための特定活動ビザ申請予定は 5 名です。(10月6日現在)

新入生 55 名迎え 10 月期開始

10月3日、12の国・地域から新入生 55 名を迎え、入学式を行いました。台湾をはじめ、インドネシア、マレーシア、タイ、香港、マカオ、韓国、ラオス、イギリス、フランス、ガーナ、そして日本語を母語としない日本人もいます。

日本語基礎科の 7 クラスは 6 日から授業がスタートしました。進学科の 2 クラスと合わせて全 9 クラス、定員 (150 名)いっぱいになりました。

(8面に山口校長の祝辞要旨等、関連記事)

【スピーチ大会最優秀賞】

一人時間のすすめ

劉 宸均 (台湾・A クラス)

みなさん、「一人の時間」は好きですか？それとも、寂しいと感じますか？

今日は、私が大切にしている「一人時間」の魅力について、お話ししたいと思います。



最近、SNS を開くと、友達と出かけたり、にぎやかに過ごしている楽しそうな投稿がたくさん目に入ります。もちろん、誰かと一緒に過ごす時間はとても大切ですが、だからこそ私は、「一人で過ごす時間」も同じくらい、いや、それ以上に価値があると思っています。

実は、私も昔は「一人で行動すること」に少し抵抗がありました。特に学生のころは、いつも誰かと一緒にいることが当たり前で、周りの目が気になったり、「友達がいなくて寂しかったらどうしよう」と不安になることもありました。しかし、日本に来て、一人暮らしを始めてから、私の考え方は少しずつ変わってきました。

ある日、私は思い切って一人でカフェに入ってみました。最初は少し緊張しましたが、温かいコーヒーを片手に、好きな本を読んだり、予定を手帳に書いたりしているうちに、だんだん心が落ち着いてきました。誰にも気をつかわずにいられるって、想像以上にリラックスできるんだなと思いました。好きな音楽を聴きながら、ゆっくりと過ごす時間は、今でも私にとって大切な癒しのひとときです。

ちなみに、みなさんは「ソロ活」という言葉をご存じですか？最近では、「ソロ活」という言葉を耳にする機会が増えてきました。一人でカフェに行く「一人カフェ」、一人でキャンプを楽しむ「ソロキャンプ」、一人焼肉や一人映画など、「一人で何かを楽しむ」というライフスタイルが少しずつ広がってきています。

こうした動きは、誰かと一緒にじゃないと楽しめない、という価値観を変えつつあります。私自身も、「ソロ活ってちょっと寂しそう…」と思っていた側でした。しかし、実際に体験してみると、意外と自由で気楽で、自分のことを深く理解できるきっかけにもなったんです。

一人で過ごす時間には、不思議な魅力があって、たくさんの「気づき」があります。たとえば、「私って、実はこういうことが好きなんだ」とか、「最近、ちょっと無理してたかも」とか。周りが誰もいないからこそ、自分の本当の気持ちがはっきりわかるのです。

もちろん、「一人時間」と「孤独」は全然違うものです。孤独は「誰かに会いたいののに、会えない」状態。ですが、「一人時間」は、自分から選んだ、自由で豊かな時間です。人に合わせるのではなく、自分を大切にするための時間。誰かと一緒にいることで得られる楽しさとは違い、

自分だけが知っている穏やかな幸福感が、そこにはあります。

そして、一人の時間を大切にするようになってから、他人との関係にも良い変化が生まれました。たとえば、自分の気持ちを素直に伝えられるようになったり、相手の立場やペースにも、以前より丁寧に配慮できるようになったと感じます。自分自身を理解し、大切にできるようになると、人間関係にも自然と良い影響が広がっていくのだと思います。

みなさんも、もし「一人って寂しそう」と思っていたら、一度、スマホを置いて、カフェや公園、あるいは自分の部屋で、「自分だけの時間」を過ごしてみてください。最初はちょっと退屈かもしれません。しかし、その静かな時間の中に、きっと新しい発見や癒しがあるはずです。

「一人でいること」を怖がらないでください。

「一人時間」は、あなた自身を大切にするための、小さな贅沢です。

私のスピーチは以上です。ご清聴ありがとうございました。



↑賞状と賞品を手に入賞を喜ぶ 7 人。↓全出場者と演題。

1	BRANDON STEVEN SETIAWAN	インドネシア (B クラス)	「イルム・パディ」	
2	KU HANNAH IZZATI BINTI KU MOHAMAD HARIS	マレーシア (F クラス)	後悔しないようにやりたいことをやろう	
3	NATHAN REINHART HARFEST LIAUW	インドネシア (E クラス)	どうして生きてるの	努力賞
4	張 義軒	台湾 (G クラス)	1 グループ	
5	劉 宸均	台湾 (A クラス)	一人時間のすすめ	最優秀賞
6	KURUSARTTRA KANOKLUK	タイ (C クラス)	偶然は行動から	
7	李 欣穎	香港 (D クラス)	はずかしさに負けない勇気の出し方	努力賞
8	張 珈嫻	台湾 (A クラス)	日本のにおい	優秀賞
9	ANDREW ANDERSON THIO	インドネシア (B クラス)	人生のグランプリ	優秀賞
10	WILLIAM KURNIAWAN	インドネシア (D クラス)	ウィリアムの物語	
11	吳 兆迪	台湾 (F クラス)	便利な言葉について	
12	NA LUMPOON BENJAPROM	タイ (E クラス)	母の嘘	優秀賞
13	蔡 子風	香港 (C クラス)	いただきます	審査員特別賞
14	劉 乃文	台湾 (G クラス)	あの日、りんごがもう一度落ちました	

日本語力の進歩を実感した日

芝浦工業大学 工学部 機械工学科 3 年

Ezra Budi Emanuel (インドネシア・2023 年 3 月卒)

—エズラさんはコロナ禍のなか、2021 年 10 月にオンラインで JET に入学しました。半年後来日が叶い、2022 年 4 月から進学クラスに入り、翌年芝浦工業大学に合格しました。現在は機械工学科 3 年生ですね。大学生活はいかがですか。

毎週、実験やレポートに追われて忙しいですが、楽しくやっています。



—日本人との交流はありますか。

はい。実験はいつも決まった 8 人のグループでやるのですが、私以外はみな日本人です。そもそも学科全体で 100 人ほど学生がいる中で、留学生は私を含めて 2 人だけなんです。もちろん、授業以外でも、親しく付き合っている友達はいます。

—エズラさんが日本を留学先を選んだ経緯を教えてください。

子供の頃から留学したいという気持ちがあって、インドネシアの小学校と中学校では英語で授業を受けていたので、留学先は最初、アメリカかヨーロッパを考えていました。その後、文化的に近いアジアで、しかも英語が通じる国ということで、シンガポールが候補になりました。しかし、最終的には親の薦めもあって、日本に決めました。もともと機械工学の勉強がしたかったので、それには日本の大学がいいだろうということです。高校 2 年生の時でした。インドネシアの大学の試験は一切受けず、日本留学一直線です。

—日本語はその時どうだったのですか。

独学でひらがなやカタカナを覚え、アニメや漫画を見て学習していましたが、ちゃんとした勉強はしたことがありませんでした。日本を留学先に決めてからは、とにかく日本語の勉強に専念しました。やがて、地元で日本語教師をしている日本人の先生と出逢い、その友人のインドネシア人の先生とともに、個人授業で 1 年半、勉強しました。

—エズラさんの今の日本語は、自然でしかも正確ですが、JET 入学時は、担当の先生によると、自信なさそうな感じだったそうです。いつ頃から「テイク・オフ」というか、「上達した」という実感を持つようになりましたか。

来日した年の夏休み頃でした。つまり、来日してから約 4 か月が過ぎたころです。日本語で話すときに、言葉が見当たらずに戸惑うということがなくなりました。クラスの友達(主に台湾人)とはいつも日本語で話していましたが、最初はカタコトでも、話しているうちにだんだんとお互いの語彙が増えていくのを感じました。語彙が増えれば、また会話が弾むので、楽しくて、どんどん日本

語を使うようになりました。

—それにしても、あなたの話すことばは、聞いていて聞きづらさが全くなく、私も語彙や文法をコントロールしなくてもいいので、ストレスなく話せます。

私は、話す前に、頭の中で言葉をいったんチェックしてから、というか、整理してからしゃべるタイプの人間なんです。ですから、語彙や文法などの間違いが少ないと思います。

—なるほど。学習者の中には、小さな間違いなど全然気にせず、通じればいいと考えている人も多いのですが、仮に通じたとしても、相手側から見ると、「この外国人にこの言葉でちゃんと理解してもらえるかな」という不安があるために、会話がなかなか深まらないということがあります。それに、間違いだらけの日本語をいつも気にせずに使っていたら、間違った日本語をわざわざ練習しているようなものですね。エズラさんが言葉選びに慎重なのは、何かわけがあるのですか。

私は幼いころから父に、「自分の言葉には責任を持って」と言われてきました。それは父のある苦い経験からの教訓なのですが、その教訓を私も身に付けているようです。

—エズラさんは、漢字も得意だったみたいですね。JET での漢字クラスは最上級クラスまで上り詰めました。

小学校の頃、中国語を少しかじったことがあり、その時の漢字の記憶が残っているのかもしれませんが、しかし、日本語の漢字は別物です。それで、繰り返し書いたり読んだりしてただ丸暗記するのではなく、どうしたら漢字に強くなれるか、勉強法を常に考えながら取り組んでいました。わからない漢字が出てきたら、すぐに調べるのではなく、文脈から意味や読みをまず考えてから辞書で確認するようにしました。

—最後に、読書のことを教えてください。エズラさんは子供の頃から読書が好きだったそうですね。そして JET で日本語を勉強している間は、1 年で 30~40 冊読んでいたと聞きました。

たくさん読んだのは確かですが、途中でやめた本も結構あります。もともと小学生の頃から、英語でアガサ・クリスティーなどの推理小説を読むのが好きでした。日本に来てからは、アニメや映画の原作をよく読んでいました。住野よる『君の膵臓を食べたい』とかですね。あと、米澤穂信の『〈古典部〉シリーズ』の『氷菓』や、西尾維新の『化物語』などです。登場人物の言葉のやりとりが面白くて、勉強にも役立ちました。

—今日のお話は、いま日本語を学んでいる JET の学生たちにたいへん参考になると思います。ありがとうございました。

JET の後輩たちへ

東京外国語大学 国際日本学部 1 年

LWEE XIAO YU EVELYN

(マレーシア・2025 年 3 月卒)

留学までの経緯と大学志望理由

私が日本語の勉強を始めたのは、本当にただの興味からでした。独学で教科書やアニメ、YouTube を通して少しずつ覚え、気づけば 7 年が経ち、言葉の奥深さや、そこに込められている文化や人の心に触れるたびに「もっと知りたい」という気持ちが強くなっていました。



そんな中で「言葉で人を繋ぐ仕事がしたい」と思うようになり、通訳や翻訳といったフィールドで自分の力を発揮できたら、と考えるようになりました。そのためには日本語だけでなく、日本そのものをもっと深く理解する必要があると感じ、国際日本学部を志望しました。

数ある大学の中で、東京外国語大学(以下、東外大)を選んだ理由は多様性です。世界中から集まる学生たちが、それぞれ違う背景を持ちながら学び合う環境に魅力を感じました。単に「日本語を学ぶ」だけでなく、他の文化や価値観と交わることで、自分自身の視野をもっと広げられると思ったからです。

実際に入学してみると、国際日本学部は「日本を外からも内からも俯瞰して見る」という考え方がベースにあり、歴史・経済・文化・言語といった様々な切り口から日本社会を学ぶことができます。私は入学前から自由度の高い学部だと聞いていましたが、実際に学び始めると、想像以上に一人ひとりの「自分らしい学び方」を尊重してくれる環境だと感じました。

留学生として感じたこと

入学するまでは、「留学生だから特別視されるのかな」と少し構えていた部分もありました。しかし実際はその逆で、私たち留学生も、日本人学生も、同じ学生として自然に溶け込める雰囲気がありました。むしろ、他の留学生の話聞くたびに「自分がどれだけ世界を知らなかったか」を思い知らされることの方が多かったです。

例えば、授業で名前すら聞いたことのない国から来た友人が、自分の国の社会問題や文化を語ってくれた時、その新鮮さに驚くと同時に、自分の無知さに恥ずかしくなることもありました。でも、そうした刺激が新しい国を学びたいというモチベーションにも繋がり、自分自身の「次のステップ」を考えさせてくれるきっかけにもなったのです。

また、東外大では、二つ以上の言語を話せることは珍しくありません。むしろ、多言語話者が普通に存在する環境でした。だからこそ、お互いに刺激し合いながら、良い意味での競争心が生まれていきます。そういった雰囲気が「自分ももっと成長したい」と思わせてくれました。

一学期を通して最初の考えと違ったこと

そのほかにも、入学前は、留学生同士で固まってしまうのではないかと心配していました。特に私は人見知りする性格でも

あるので、最初は自分から輪に入るのが難しいかもしれないと感じていました。しかし、実際に授業が始まってみると、そのような心配はいつの間にか消えていました。授業ごとにメンバーが変わり、その度に新しい人と自然に話す機会があるので、クラスに固定された団体のようなものがあまり存在しません。気づけば、キャンパス内で顔を合わせたら軽く挨拶を交わしたり、一緒に昼食をとったりと、自然な形で人間関係が広がっていきました。

キャンパス内で時には一人で過ごすこともあります。それを気にする人はいません。むしろ、皆が程よい距離感を大切にしているからこそ、一人の時間も心地よく過ごせました。留学生同士で固まることもなく、様々な背景を持つ友人たちと関わることで、色々な価値観に触れることができたのが本当に良かったと感じています。

勉強以外で周囲から学んだこと

私が大学で学んだ大きなことの一つは「自分のペースを大切にすること」でした。東外大では、皆が自分の興味に基づいて授業を選び、課題に取り組んでいます。同じレポートテーマでも、人によってまったく違う視点や切り口で仕上げてくるので、「正解は一つじゃない」ということを実感しました。

その一方で、周囲に流されずに自分で計画を立てて行動しないと、簡単に置いて行かれる環境でもあります。自由だからこそ、自分から動かなければ何も始まりません。そんなプレッシャーがあったからこそ、主体的に物事に取り組む習慣が身につきました。

「誰かに合わせる」よりも、「自分が何をしたいのか」を考えて行動することで、自分らしく春学期を楽しめるようになったと思います。

日本語学校での学びがどのように役立ったか

私にとって日本語学校での経験は、大学生活における心の支えです。日本語能力を高めただけでなく、敬語やマナーといった日常的なコミュニケーションスキルも磨くことができたからです。特に、敬語の使い方や、目上の人との接し方などは、大学に入ってから大いに役立ちました。多様な文化背景を持つ人々と関わることでできた日本語学校での経験があったからこそ、大学でも新しい環境に臆することなく馴染むことができたと思います。

後輩たちへのメッセージ

これから大学を選ぶ皆さんに伝えたいのは、「大学選びは自分の目で見て決めてほしい」ということです。もちろん、ランキングや偏差値、ネットでの評価を見ることも大切ですが、それだけではわからない空気感や雰囲気が、実際に足を運ぶことで見えてきます。

大学生活は、自分から動くことでどこまでも広がります。待っているだけでは、何も始まらない世界です。でも逆に言えば、ほんの少し勇気を出して行動することで、驚くほど多くの出会いや学びが待っている場所でもあります。だからこそ、自分の「好き」や「やりたい」を信じて、一歩踏み出してみてください。そして、そこで得た経験が必ず、これからの人生にとって大きな糧になるはずです。

応援しています。頑張ってください。

アニメがつなぐ人と人

KURUSARTTRA KANOKLUK

(タイ・2025 年 9 月卒)

去年、「ラブライブ！サンシャイン！！」というアニメを見始めました。このアニメは高海千歌という女の子がスクールアイドルに憧れて、スクールアイドルを始めたという話です。このアニメの挿入歌を歌うグループの名前は Aqours(アクア)です。このアニメを観たあと時間がたつにつれ、感激がだんだんと増してきました。

「一番大切なのはできるかどうかじゃない。やりたいかどうかだよ！」という台詞が本当に大好きです。素質や適性でなく、好きであることややりたいと思う純粋な気持ちが大切だということを表しているからです。

それに、自分の限界を感じたとき、「今から 0 を 100 にするのは無理かもしれない。でも、1 にすることならできるかもしれない」という台詞にも個人的に非常に響きました。その言葉のおかげで、「もう少しだけ頑張ってみよう」と思えるようになりました。

それで、この作品が大好きになり、その気持ちが高まり、アニメの舞台である沼津という町に行ってみようと決意しました。

最初は「聖地巡礼」が目的で、沼津の様々な場所を訪れました。例えば、アニメに登場する駄菓子屋の「辻宗商店」です。最初はただの雑談やアニメの話ばかりでした。しかし、行けば行くほど沼津の人々との絆が深まっていきました。沼津を訪れる目的はいつの間にか変わってしまいました。友達と会いたいという理由で沼津へ行くことになったのです。特に、辻宗商店のおばあちゃんには、毎月必ず会いに行くようにしています。

何回か沼津を訪れるうちに、多くの日本人と交流でき、想像もつかなかったような経験ができました。例えば、アニメに登場するキャラクターの誕生日会です。この会は 2026 年で 10 年目に入るそうです。この会には約 20 人が参加し、一緒に食事をするだけでなく、皆で持ち寄ったプレゼントの交換会もあります。本当に楽しい交流会でした。初めて参加した日のことはまだよく覚えています。

沼津での花火大会も日本人の友達と一緒に見に行ったことがあって、そこでもまた日本人の知り合いが増えていくことになります。しかし、ここで知り合った人々は沼津出身者だけではありません。様々な地方の人々にも出会いました。不思議なことに、皆は最初アニメがきっかけでここを訪れたんですが、最終的にはこの街自体が大好きになったことです。

留学生にとって、日本でやりたいことの一つは、日本人との交流だと思います。日本人と自然に会話できる機会はなかなか見つけにくい、と感じる留学生も多いかもしれません。しかし、こうした経験を通して、私は気づきました。やってみると、それほど難しくないと分かりました。自分で声をかければ、ほとんどの人が優しく応

じてくれるはずです。日本語が苦手だから、話せないと思っている人がいるかもしれません。自信がないからこそ、実際に話すことが大切です。私も話せば話すほど、自分の足りない部分がわかってきました。

「ラブライブ！サンシャイン！！」の中で一番印象深かったのは 2 期 11 話の最後のシーンで、「勇気はどこに？君の胸に！」という曲が流れてきた場面です。学校の祭が終わる前にこの曲が流れてきて、生徒たちが一緒になって歌いました。私はこの曲の感想を「Love Live! Days」というアニメ専門の雑誌に投稿し、8 月号に掲載されました。

私が「勇気はどこに？君の胸に！」の歌詞で一番好きなのはこの部分です。

やり残したことなどない
そう言いたいね いつの日にか
そこまではまだ遠いよ
だから僕らは頑張って挑戦だよ

(作詞：畑 亜貴)

私は 9 月に JET を卒業します。この文章を書きながら、ずっと考えています。日本での留学生としてやり残したことはあるのだろうか。この 2 年間、本当にたくさんのことを経験し、やりたいこともたくさんやりました。悲しいことや苦しいこともあったけど、何一つ後悔がありません。やり残したことがないと言えそうな気がします。残り時間は少ないけれど、悔いが残らないよう過ごしたい。新しい挑戦、新しい始まりも全力で頑張っていきたい。日本で得た学びと出会いを大切に、タイに帰国後、新しい一歩を踏み出したいと思います。



辻宗商店のおばあちゃん(右)と

JET 日本語学校での私の「成長」

桜美林大学 グローバル・コミュニケーション学群

専任助教 荻原 ま き

私は 2002 年 10 月から 2018 年 3 月まで、JET 日本語学校で 15 年ほど非常勤講師として従事してきました。一つの学校において長期間にわたり教師を続けてこられたのは、なによりも JET の環境のおかげでした。建物自体はやや古いという記憶はありますが、そのような環境ではなく、学生が成長できる学習環境、そして教師が成長できる環境のことです。



私が JET 日本語学校のドアを叩いたのは、日本語教師養成講座についての話を聞くためでした。当時の私は「日本語教育能力検定試験」、「大学における日本語教員養成課程」、「420 時間の日本語教師養成講座」のどれも持っておらず、どこから手を付けていけばいいのか迷子になっていました。しかし情報を集める中、「上記の 3 つがあれば望ましいが、情熱がある人を求む」と書いてある日本語学校を見つけました。それが JET 日本語学校でした。日本語教師の資格を全く持っていない私に対し、実践中心の養成講座だったこと、当時の先生方が熱心に説明をしてくださったことなど、ここで頑張ってみよう！と思わせてくれたのを覚えています。

初級クラスの担任が多かったのですが、それは私にとっての最高の喜びでした。「あいうえお」から始めた学生が、半年後には「尊敬語・謙譲語」を話せるまでに上達する様子を目の前で見ることができるからです。また、初級クラスだけではなく、その後中級、上級クラス、そして進学クラスの担当を任せられ、自分自身の教師としての経験も積み重なっていきました。初級クラスで担当した学生が進学クラスへ行き、大学、大学院と進んでいく姿を見ると、目頭が熱くなるばかりでした。これは会社員であったら経験できない熱い思いです。

また、一番最初に担任を持ったクラス（今から 23 年前！）の学生とも今現在もつながっていることが何よりの財産と思っています。当時、恋愛相談を受け、学生に「恋は駆け引きだよ！ちょっと引いてみたら？」などと話したこともあります。その後その学生の恋が実り、結婚し、子どももできて、子どもを連れて来日した際に紹介してくれた時などは、本当に嬉しいものです。

実はつい先日、沖縄に行きました。JET の 10 年前の卒業生が沖縄で就職し、沖縄の方と結婚することになり、式に参列してほしいと招待されたからです。また、偶然沖縄旅行に来ていた別の卒業生も会いに来てくれ、久しぶりに会うことができました。

このような学生とのつながりが続けられるのは JET 日本語学校ならではのようです。

「教師—学生」という関係性ではなく、一人の人間としての付き合いができていんだな、と心の底から思うことができます。これもこのようないい付き合い方につながる JET の環境のおかげだと思います。卒業した学生の人生を見ることができる環境は、なかなかないのではないのでしょうか。

このことは、私自身の成長にもつながっています。言葉や国・地域、文化も異なる環境の中で、私自身学生に教えてもらうことばかりでした。学ぶこともたくさんあり、今でも私にとって、「学生は先生」です。そのような「先生」たちと一緒にまだまだ成長し続けたいと思います。



9 月 13 日、沖縄で行われた黄卓凡さん(2014 年短期終了・左から 2 番目)の結婚式。右端は親戚の黄淳晨(アニタ)さん。2008 年短期終了生です。

【新任教師紹介】 村 上 薫(むらかみ かおり)先生
埼玉県出身。趣味は映画やドラマ鑑賞、海外旅行です。これまでにアジア、アフリカ、中南米など約 20 か国を訪れました。特技は柔道で、4 歳から大学まで柔道一筋でした。

イベント山盛りサマーコースに 31 名

7 月 2 日から 8 月 15 日まで、7 週間にわたって開講した夏の短期コース(サマーコース)に、台湾やインドネシア、タイなどから 31 名が参加しました。

JET のサマーコースは、なんととってもイベントが盛りだくさん。大学生との交流、地域住民との交流、歌舞伎鑑賞、オーケストラコンサート、専門学校(製菓、音楽、美術)の体験授業、プロ野球観戦、浴衣の着付け、輪島塗金箔張り体験、講演会、ハイキング、博物館見学、茶道体験など。午前の日本語の授業後、毎日のようにあるイベントを、多くの学生が楽しみました。(詳細は 7~8 面に)

学 校 日 誌

- 4月18日 よむよむ会(多読の会)スタート。
- 4月21日 早稲田大学国際学生友好会(WIC)「日本教室」の「ご飯会」イベントに3人参加。
- 4月23日 タイ王立チットラーダ校の高校生8人を迎え、交流授業。
- 4月28日 大学院進学座談会。鄭宇傑さん(台湾・2022卒・都立大学院)、梁伯榮さん(台湾・2024卒・上智大学院)、張瑋さん(台湾・2024卒・拓殖大院)が経験談を披露。
- 4月28日 4月期の就職セミナー開始。その後5月12日、6月2日、9日、12日、16日と実施。
- 4月30日 大学(学部)進学座談会を開催。Lwee Xiao Yu Evelynさん(マレーシア・2025卒・東京外語大)、Kakikawa Senaさん(タイ・2025卒・明治大)、Surattanasurang Pavaraseさん(タイ・2024卒・東海大)、Ezra Budi Emanuelさん(インドネシア・2023卒・芝浦工大)が後輩たちにアドバイス。
- 5月9日 葛西臨海公園に遠足。大学生7人も参加し、バーベキューと屋外ゲームを楽しみました。



- 5月10日 第49回わんぱく相撲北区大会(主催:わんぱく相撲北区大会実行委員会)に、2人がボランティアでお手伝い。
- 5月17日 東洋大学で交流会。日本語クラスの18人参加。
- 5月24日 ヒップファミリークラブの1日ホームステイに11人参加。
- 5月25日 LIFE SCHOOL 桐ヶ丘こどものもり・日本語イベント(主催:地域支援活動団体 TOMONI)で、蔡子風さん(香港)が通訳と日本語指導を務めました。
- 6月10日～12日 小石川中学の2人がJETで職場体験。
- 6月15日 国際交流大学連絡協議会(SNIE)主催のショートホームステイに3人参加。
- 6月16日 WICのイベント「日本教室」に参加。
- 6月17日 漢字進級テストで7人が満点合格し、飛び級に。張紫萱さん(台湾)は5回連続、蔡子風さん(香港)は3回連続。
- 6月20日 サンパール荒川で行われた外国人のための歌舞伎鑑賞教室(Discover KABUKI)に、9人参加。
- 6月27日 国立能楽堂での能楽鑑賞教室に9人参加。
- 6月30日 就職セミナー「企業経営者との意見交換会」を東京商工会議所北支部「きた経営塾」の協力で開催。JETから12人が参加。(写真ノ)



- 7月2日 夏の短期コース開講(8月15日まで)。
- 7月2日 紅葉中学から2人が職場体験。
- 7月3日 中学生との交流会。
- 7月6日 北とびあで行われた講談「神田京子大独演会」を11人が聞きに行きました。うち7人はボランティアスタッフとしてお手伝いも。(JET日本語学校後援会がチケット代を補助)
- 7月7日 垣内幸彦先生による輪島塗金箔張り体験教室を校内で実施。23人が参加。
- 7月9日 浴衣着付け教室に11人参加。卒業生の陳(鈴木)紫瑩さんが指導。



- 7月9日 進学クラスの31人が東洋大学を訪問。大学生と席を並べて授業に参加し、ディスカッションをしました。



- 7月11日 避難訓練
- 7月12日 SNIEのイベント「東京オリエン」に3人が参加。
- 7月15日、16日、18日、24日、25日、8月6日 北区防災センターで防災訓練。
- 7月16日 WICの大学生との交流会を校内で実施。10人が参加。

○7月16日 東京青年会議所(JCI)の主催による「やさしい日本語の勉強会」で山口校長が講演(於:北とびあ)。「やさしい日本語」の実践の場として、外国人と地域住民との交流会が実施され、JETの学生22人が参加。



○7月17日～31日 桜美林大学から教育実習生2人を受入れ。
 ○7月18日 国立科学博物館の見学に19人が参加。
 ○7月21日 練馬文化センターで行われた高田馬場管絃楽団のコンサートを12人が鑑賞。常任指揮者の森山崇さんからのご招待です。
 ○7月22日 専門学校体験授業(ESP エンターテイメント東京)に17人が参加。作曲に挑戦しました。
 ○7月23日 ティアラ江東で行われた歌舞伎鑑賞教室に19人が参加。
 ○7月24日 専門学校体験授業(専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー)に26人が参加。特殊メイクを体験しました。
 ○7月25日 東京製菓学校に出かけ、パン作りの体験授業。24人が参加。
 ○7月26日 長瀬の宝登山ハイキングに8人が参加。
 ○7月26日 東京青年会議所が主催する「Kita 万博」。パフォーマンスとトークセッションのステージに、3人が出演。



○7月26日 ㈱H.I.S.のモニターツアーに2人が参加。新潟・柏崎での田舎体験、温泉、花火大会などを楽しみました。
 ○7月28日 得猪先生による茶道体験。
 ○7月31日 第30回校内スピーチ大会
 ○8月2日～6日 東京女子大学で日本語教育を専攻する学生による「日本教室」。6人が参加。
 ○8月6日 東京ドームでプロ野球を観戦。18人が参加。
 ○8月7日 SNIEの「納涼船」イベントに4人が参加。
 ○8月7日・8日 日本語学校教育研究大会(日本語教育振興協会主催)で、阪本麻子先生が「中級聴解授業における「多聴」活動の実践」というテーマで発表を行いました。

○8月11日 WICの「日本教室」イベント「あさがや七夕まつり」に5人が参加。

○8月14日 SNIE加盟の大学生11人(明治大、専修大、女子栄養大)をJETに招き、サマーコースの学生たちと交流会。

○8月19日 SNIEのイベント「お菓子パーティー」に2人が参加。

○8月28日 原摂子先生が担当する日本事情の授業「大人の社会科見学」で、東京地方裁判所での裁判を傍聴。17人が参加。

○9月10日 東京都消費生活総合センターからの出前授業。中級のD、Eクラスで消費者トラブルについての防犯意識向上を図りました。

○9月13日・14日 滝野川八幡神社の例大祭。14日は2人が神輿担ぎ手に。

○9月16日 漢字クラスの期末テストで4人が満点。そのうちCindy Aurellie Marcianoさん(インドネシア)とChong Jie Haoさん(マレーシア)は6月の進級テストに続いて満点。

○9月17日 専門学校進学希望者のためのガイダンス。

○9月18日 法務省司法法制部から講師を招き、原先生の日本事情クラスで「模擬裁判」の授業。

○9月19日 日本語基礎科修了式

○9月26日 校内実践報告会で、泉円香先生と石津慎也先生が発表。

○9月27日 北区花火会に、2人がボランティア参加。

○9月29日 渋谷栄一翁を主人公とした顕彰能「青淵」の本邦初演。銀座の観世能楽堂で学生11人が鑑賞(越野理事長の招待)。

○10月1日～5日 ゆがわら国際交流協会主催の「湯河原ホームステイ文化交流」に3人が参加。

○10月1日 クラス分けテスト

○10月3日 入学式、オリエンテーション、新入生歓迎パーティー。通訳には卒業生の盧聖堯さん(台湾・2025卒)、楊卓文さん(香港・2024卒)、Ezra Budi Emanuelさん(インドネシア・2023卒)、Ng Kai Jianさん(マレーシア・2024卒)、Paweenpongpat Tanawinさん(タイ・2024卒)の5人があたりました。



【山口閑子校長の祝辞要旨】

入学おめでとうございます。みなさんが日本に来てくれたこと、そしてJETを選んでくれたことに心から感謝し、嬉しく思います。

今日という日は、一回しかありません。一回限りの「今この時」を大切にしましょう。今、日本でできないことにチャレンジしましょう。いろいろなアクティビティーに積極的に参加しましょう。本をたくさん読んで考える力をつけましょう。

JETの校訓「天は自ら助くる者を助く」のとおり、努力する人は必ず報われます。これからみんなの力で明るく楽しい学校を作ってゆきましょう。